

《第25回全国ホタテ大手荷受・荷主取引懇談会》

- ・日 時 令和元年5月29日(水) 15:00～18:15
- ・場 所 京王プラザホテル札幌 2階 「エミネンス」
- ・出席者 来賓：6名 荷受：52社 87名 商社：21社 31名
生産者代表：10組合 19名 関係団体：2団体 4名
荷主：43社 56名 その他：5名 報道機関

I 開 会

II 主催者挨拶 代表理事会長 根田 俊昭

- ・ 北海道のホタテは、噴火湾産は斃死による減産を強いられたが、全体では増産。
- ・ しかしながら、加工の機械が進んでおらず、人件費等の経費がかさみ、期待されるような価格帯には必ずしもなっていない現状。
- ・ このホタテという北海道の優等生である水産物をビジネスとして継続していくことを期待している。

III 来賓挨拶 築地魚市場株式会社 代表取締役社長 吉田 猛 様

- ・ 昨年の築地、豊洲の総取扱金額のうち、北海道産は11%を占めた。ホタテも一昨年に比べ取扱量が増加。
- ・ この数年、米国や中国での需要が増え、価格が上がったことにより国内市場は置いていかれたが、昨年からは東京では需要、消費が増加しており、ホタテの流通が戻ることを関東、関西の消費者も期待している。

IV 来賓紹介

V 講 演

演 題 「ほたての生産・流通動向等について」

講演者 北海道漁業協同組合連合会 販売第一部 部長代理 難波 将史 様

VI 全体討議 (総合司会：(株)長谷川水産 長谷川社長 (副会長))

- 1 ボイル・冷凍ボイル部門 (進行：(株)丸太水産 坂本社長 (理事))
 - 製品相場は、原貝価格が輸出需要の低下から前年並みの相場に落ち着いている。一昨年の売場喪失の影響等により販売は伸びていない。
 - 今期は、陸奥湾産ベビーホタテが増産見込みであり、目が向いている。ただ、昨年の流れからすると消化は十分に可能。
 - 荷受、商社の方には、販路維持のため、協力をお願いする。
- 2 生玉・玉冷部門 (進行：北見食品工業(株) 田中社長 (理事))
 - 今年の玉冷の生産量はオホーツの原貝の増産計画等により増える見込み。昨年同様、売り足のつくような価格設定を望む。
 - 昨期はスタートの販売は伸びたが、その後集荷が厳しくロスも出たので、今期は、産地からの円滑な商品供給が課題となると思われる。
 - 労働力不足等、円滑な出荷が難しい現状はあるが、消費者の方により多く食べてもらうため、産地・消費地意思疎通を図り、取り組んでいきたい。

VII 閉 会